

「でも、私そういう人間じゃなくて。」

青山学院横浜英和中学高等学校 佐藤慎一郎

二日後、テストです。私はこの時期、文章を書きたくなります。「テスト前なら勉強しろよ!」と思った、そこのあなた。その通りです。頭では分かってるんですけどね。

ところで皆さん、精神障がいて、どう思います?最近ね、ADHDやらHSPやら。そういう話、よく聞くんです。

ADHDは、注意欠如多動症とも呼ばれ、話を集中して聞けない、作業が不正確、なくしものが多いなどの「不注意」、体を絶えず動かしたり離席する、おしゃべり、順番を待てないなどの「多動性」「衝動性」の特性がみられる発達障害の一つです。

この文書を見た時、思ったんです。血液型診断みたいだなあ、って。

聞いたこと無いですか。A型は几帳面、みたいな。あれ、実は科学的根拠なんて無いんです。でも、信じてる人、多いじゃないですか。理由は簡単で、「誰にでも当てはまりそうなこと」書いてるからなんです。

最近、「私、ADHDかも」ってよく聞くんです。「だって、私、いつもなんか忘れるし」って。そんなん普通なんです。でも、ADHDの特徴が「誰にでも当てはまりそう」だから、皆そう思っちゃうんですよね。

でも、冷静に考えたら不思議に思いませんか。普通、望んで障がい者になりたいわけじゃないですか。それなのに、皆それに取り憑かれるんです。「私は、ADHDだ」って。

ちょっと考えたんです。それで思ったのが、ADHDって救いなんじゃないかなあって。ADHDって、忘れ物しても、怒られてもしょうがない。多分、そう思えるんです。だって、障がいたから。「変えられない先天的なもの」だから。自分の非を障がいのせいにできるのって、すごい楽なんじゃないかなって、そう思ったんです。

でも、それを否定したくて、この文章書いてるわけじゃないんです。だって、私もだから。コンテスト応募して賞取れば、一応、成績表に書けるから。そう思うと、なんか楽で。今もこの文章に逃げてるんです。まるで、ADHDに逃げるみたいに。

私多分テスト終わったら言うんです。「本気出したら」って。心では思うんです。「なんで文章なんて書いたんだろう」って。

逃げるのって、楽なんです。テストのことなんて、考えたくもないです。でも、ここで「人生のために」とか言えるのが、かっこいい人間で。でも、私そういう人間じゃなくて。でも、人生はそんな甘くなくて。

ああ、人生から逃げたい。勉強したくない。勉強しても点数が低い自分を、考えたくない。

ちょっと余談なんですけど、私、「一緒に帰ろ」って言えないんです。別に、その言葉を発するのが怖いじゃなくて、断られるのが怖いんです。めっちゃ好きな友達に、「それ」が言えないのって、つまらない人生だと思いませんか?

「迷惑をかけたたくない」という思いは、確かにあるんです。でも、それよりも、「突き放されるのが怖い」んです。だから、自分から突き放してしまうんです。

あの子から「ああ、ごめん今日はきつい」って、そう言われるのが嫌で嫌で、そもそも声をかけられないんです。

きっと私は、誰かの葬式に行った時、涙を流すことはできません。そんな人間の葬式に、泣いてくれる友人なんているのでしょうか。いや、「」。ああ、あぶない。古典を学ぶと、反語なんていう表現が身につくから困りものです。今も、古典から逃げているのに。

人生は、逃げるほうが楽です。こんなに後悔していても、このサイクルから抜け出すことなんて出来ません。

ああ、テストが近い。後悔のサイクルから抜け出せず、またこんなことをしている。こんなだめな人間なのに、どうして変われないんだろう。

このまま逃げたい。パリか、マルタか。とにかく、ここじゃないどこかで、文章を書いていたい。それなのに、文字数はそれを許してくれません。このコンテストの文字数は、千六百文字までです。こんな私は、テストから逃げられるのでしょうか。いや、「」。

出典:LITALICOジュニア “ADHD（注意欠如多動症）とは？特徴や原因、チェックリストをご紹介します”